

平成23年度
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要

[採択時公表]

| | | | |
|---|--|---|-------|
| 機関名 | 慶應義塾大学 | 機関番号 | 32612 |
| 1. 全体責任者 (学長) | (ふりがな) せいけ あつし 氏名・職名 清家 篤 (慶應義塾大学長) | | |
| 2. プログラム責任者 | (ふりがな) はせやま あきら 氏名・職名 長谷山 彰 (慶應義塾常任理事) | | |
| 3. プログラム コーディネーター | (ふりがな) おおにし こうへい 氏名・職名 大西 公平 (慶應義塾大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻教授) | | |
| 4. 申請類型 | A <オールラウンド型> | | |
| 5. | プログラム名称 | 超成熟社会発展のサイエンス | |
| | 英語名称 | Science for Development of Super Mature Society | |
| | 副題 | | |
| 6. 授与する博士学位分野・名称 | 博士(工学)、博士(理学)、博士(医学)、博士(政策・メディア学)、博士(経済学)、博士(商学) | | |
| 7. 主要分科 | (①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 | | |
| | 情報学、人間医工学、健康・スポーツ科学、生活科学、腫瘍学、経済学、経営学、社会学、数学、物理学、複合化学、材料化学、機械工学、電気電子工学、建築学、材料工学、総合工学、農学、基礎医学、社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、看護学 | | |
| 8. 主要細目 | (①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 | | |
| | | | |
| 9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。) | 理工学研究科基礎理工学専攻、理工学研究科総合デザイン工学専攻、理工学研究科開放環境科学専攻、医学研究科医学研究系専攻、政策・メディア学研究科政策・メディア学専攻、経済学研究科経済学専攻、商学研究科商学専攻 | | |
| 10. 共同教育課程を構想している場合の共同実施機関名 | | | |
| なし | | | |
| 11. 連合大学院として参画または構想する場合の共同実施機関名 | | | |
| なし | | | |
| 12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名) | | | |
| なし | | | |

(機関名:慶應義塾大学 申請類型:オールラウンド型 プログラム名称:超成熟社会発展のサイエンス)

15. プログラム担当者

計 32名

※他の大学等と連携した取組(共同申請を含む)の場合:申請(基幹)大学に所属するプログラム担当者の割合 [%]

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 所属(研究科・専攻等)・職名 | 現在の専門 学位 | 役割分担 (平成24年度における役割) |
|--------------------------|-----------|----|---|------------------------------|------------------------|
| (プログラム責任者) 長谷山 彰 | ハセヤマ アキラ | | 慶應義塾常任理事 | 史学 法学博士 | プログラム責任者 |
| (プログラムコーディネーター) 大西 公平 | オホニ シウヘイ | | 理工学研究科・総合デザイン工学専攻・ 教授 | 電気電子工学 工学博士 | プログラムコーディネーター |
| 青山 藤詞郎 | アヤマ トウジロウ | | 理工学研究科・総合デザイン工学・教授 (理工学研究科委員長) | 機械工学 工学博士 | 分野間連携 |
| 天野 英晴 | アマノ ヒデアキ | | 理工学研究科・開放環境科学専攻・教授 | 計算機工学 工学博士 | 国際連携 |
| 伊藤 公平 | イトウ コウヘイ | | 理工学研究科・基礎理工学専攻・教授 | 材料科学 Ph.D. | 国際連携担当 |
| 今井 宏明 | イマイ ヒロアキ | | 理工学研究科・総合デザイン工学専攻・ 教授 | 材料化学 工学博士 | 進学する学部生指導 |
| 神成 文彦 | カンナリ フミヒコ | | 理工学研究科・総合デザイン工学専攻・ 教授 | 光エレクトロニクス 工学博士 | 大学院生プログラム指導 |
| 黒田 忠広 | クロダ タダヒロ | | 理工学研究科・総合デザイン工学専攻・ 教授 | LSI工学 工学博士 | 産業界連携 |
| 小池 康博 | コイケ ヤスヒロ | | 理工学研究科・総合デザイン工学専攻・ 教授 | 光材料工学 工学博士 | 分野間連携 |
| 戸嶋 一敦 | トシマ カズノブ | | 理工学研究科・基礎理工学専攻・教授 | 生命化学 工学博士 | 産業界連携 |
| 山中 直明 | ヤマナカ ナオアキ | | 理工学研究科・開放環境科学専攻・教授 | 通信工学 工学博士 | 産業界連携 |
| 伊藤 裕 | イトウ ヒロシ | | 医学研究科・医学研究系専攻・教授 | 内分泌代謝 博士(医学) | 産業界連携 |
| 大谷 俊郎 | オオタニ シンロウ | | 健康マネジメント研究科・看護・医療・ス ポーツマネジメント専攻・教授 | スポーツ医 学 | 分野間連携 |
| 北川 雄光 | キタガワ ユウコウ | | 医学研究科・医学研究系専攻・教授 | 一般・消化器外科 医学博士 | 医学系幹事 |
| 武林 亨 | タケノ ケン | | 医学研究科・医学研究系専攻・教授 | 公衆衛生学 博士(医学) | 進学する学部生指導 |
| 坪田 一男 | ツバタ カズオ | | 医学研究科・医学研究系専攻・教授 | 眼科学 博士(医学) | 産業界連携 |
| 戸山 芳昭 | トヤマ ヨシアキ | | 医学研究科・医学研究系専攻・教授(慶 應義塾常任理事) | 整形外科学 博士(医学) | 分野間連携 |
| 三村 将 | ミムラ マサル | | 医学研究科・医学研究系専攻・教授 | 精神神経科学 博士(医学) | 大学院生プログラム指導 |
| 安井 正人 | ヤスイ マサト | | 医学研究科・医学研究系専攻・教授 | 薬理学 博士(医学) | 国際連携 |
| 矢作 直久 | ヤハキ ナオヒサ | | 医学研究科・医学研究系専攻・教授 | 低侵襲療法 博士(医学) | 産業界連携 |
| 里宇 明元 | リウメイゲン | | 医学研究科・医学研究系専攻・教授 | リハビリテーション 博士(医学) | 産業界連携 |
| 上山 信一 | ウエヤマ シンイチ | | 政策・メディア研究科・政策・メディア学 専攻・教授 | 公共経営学 修士 | 産業界連携 |
| 金子 郁容 | カネコ イクヨウ | | 政策・メディア研究科・政策・メディア学 専攻・教授 | Operations Research Ph.D. | 産業界連携 |
| 國領 二郎 | クニノリ ジロウ | | 政策・メディア研究科・政策・メディア学 専攻・教授 | 経営情報システ ム 修士 | 政策・社会科学系幹事 |
| 徳田 英幸 | トクダ ヒデアキ | | 政策・メディア研究科・政策・メディア学 専攻・教授(政策・メディア研究科委員長) | Computer Science Ph.D. | 産業界連携 |
| 村井 純 | ムライ ジュン | | 政策・メディア研究科・政策・メディア学 専攻・教授 | コンピューターコミュニケーション 工学博士 | 進学する学部生指導 |
| 石橋 孝次 | イシハシ コウジ | | 経済学研究科・経済学専攻・教授 | 産業組織論 Ph.D. | 産業界連携 |
| 河井 啓希 | カワイ ヒロキ | | 経済学研究科・経済学専攻・教授 | 計量経済学 商学修士 | 国際連携 |
| 駒村 康平 | コマムラ コウヘイ | | 経済学研究科・経済学専攻・教授 | 社会政策 博士(経済学) | 大学院生プログラム指導 |
| 清家 篤 | セイケ アツシ | | 商学研究科・商学専攻・教授(慶應義塾 大学長) | 労働経済学 博士(商学) | 分野間連携 |
| 早見 均 | ハヤミ ヒトシ | | 商学研究科・商学専攻・教授 | 労働経済学 博士(商学) | 進学する学部生指導 |
| 八代 充史 | ヤシロ アツシ | | 商学研究科・商学専攻・教授 | 人的資源管理論 博士(商学) | 産業界連携 |

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

プログラムの概要

慶應義塾大学大学院は、これまで自らが蓄積する知と新しい知の創造を担う教員研究者が国際的に卓抜した教育研究資源を活用しながら、新しい時代に適応するよう常に進取の気象で大学院改革を行っている。本プログラムはこの改革の延長上にあるもので、既設 13 研究科(修士課程)のいずれかに入学した学生が「超成熟社会発展のサイエンスプログラム」に自ら申請し、その後、競争的に採用された 20 名/年程度の学生に対して、正指導教授のもとで高い専門性を骨太に仕上げると同時に、副指導教授等を中心に「水飲み場」として機能するファカルティ環境で専門を肉付けする文理融合教育を実施し、新しい文明を切り拓く博士リーダーを養成するものである。このファカルティ環境は地政学的なローカル性を意識しないグローバル教育空間であり、海外 265 の慶應義塾協定連携校にも門戸を開くことで、大学院生の短期交換留学や教員研究者の交換等を通して海外と太く繋がっている。

プログラムの運営には改革理念を共有する卓越した教育研究業績を有する理工学、医科学、政策・社会科学諸分野の教授を中心としたリーディング大学院プログラム委員会が既存の各研究科と協働して当たる。同時に産官界がコンソーシアムを組んで本プログラムの教育に参画し、新たに設置するリーディング大学院ボード会議を通して、企業や行政からの有資格人材がリーディング大学院プログラム委員会と協働して、短期・中期計画、審査、評価、展望などの根幹の運営に参加する。コンソーシアム会員は、本プログラムで講義や演習を通じた現実社会の生の問題の提示、メンターとしての指導、インターンシップや研修などの受入、特任教員としての教育、学位審査、プログラムオフィサーを通じた産官学間のインタフェースなどの各階層で重要な役割を務める。選抜された学生は、1) 各自の専門分野において核となる知識や方法論をしっかりと身に付け、2) 細胞質に当たる周辺学術を問題提起型グループ演習や講義を通して学び、3) 専門知が社会へ滑らかに循環する目的を達成するため障壁や規制などの知識を修得するとともに、4) 社会からのメンターの指導も受けながら実社会の問題に触れ、5) タームペーパーを半期に一度作成しながら社会への視野を広げ、その結果として5年一貫のリーディング大学院「超成熟社会発展のサイエンス」プログラム課程において修士(専門)/修士(副)/博士(専門)または修士(専門+副専攻相当の履修)/博士(専門)の学位を取得する。

プログラムの特色

本プログラムは今後の日本と世界が経験する超成熟社会を持続的に発展させるという人類の課題を、理工学、医科学、政策・社会科学が文理融合した「超成熟社会発展のサイエンスプログラム」で本格的に取り組み、今後の世界のリーダーを輩出していくという挑戦的な内容を含むのが特色である。その結果、1) 専門領域について高度な知見とスキルを持ち、2) 日本と世界における課題を理解し、3) 解決のための問題点を抽出し、4) 論理的な思考に基づいて長期的展望と幅広い観点からその解析を行い、5) 専門スキルを活用して該当する課題の解決法を導き、6) 倫理観、使命感、責任感に立脚した公正な理念を持ちながら、7) 高いコミュニケーション能力と説明能力で社会をリードすると共に、交渉の場でも適正な能力を発揮して、8) これを実行する、世界の公共人材となる博士リーダーを社会に輩出するという従来にない特色を持つ新しい大学院の姿を追求するプログラムとなっている。

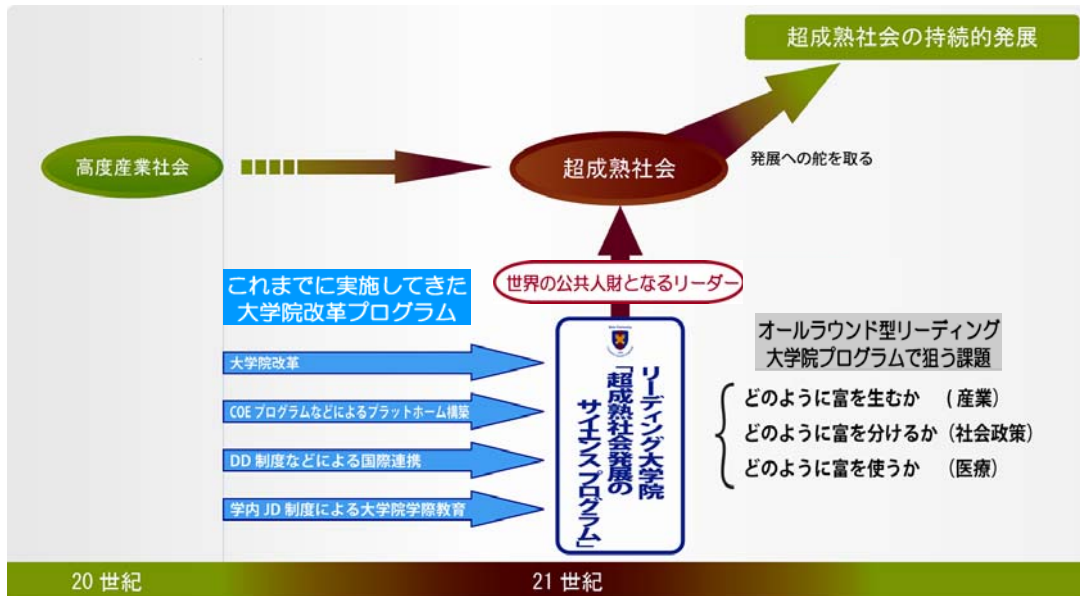
プログラムの優位性

慶應義塾の大学院では過去 10 年に亘って理工学、医学、政策・社会科学や人文科学等の幅広い分野で延べ 26 件の 21 世紀 COE、グローバル COE、大学院 GP などの大学院プログラムを積極的に推進し、後期博士課程学生の高度人材育成プラットフォームを築き上げてきた。また、慶應義塾と連携している海外連携大学 265 校の教員研究者や大学院生との協働研究や人材交流などを通じて、グローバルな教育研究の展開を図ってきた。また、1,568 件(2010 年度)に及ぶ企業等との共同・受託研究を通じて、実社会のニーズに応える研究環境を整えてきた。慶應義塾は 150 年以上前に国難の危機にあった幕末日本を近代的国家に導く潮流を作り、率先して社会の道標を示してきた。このように他に見られない層の厚い経験が大学に遺伝子として蓄積されている。今、その遺伝子を再び発現する時機が来ている。

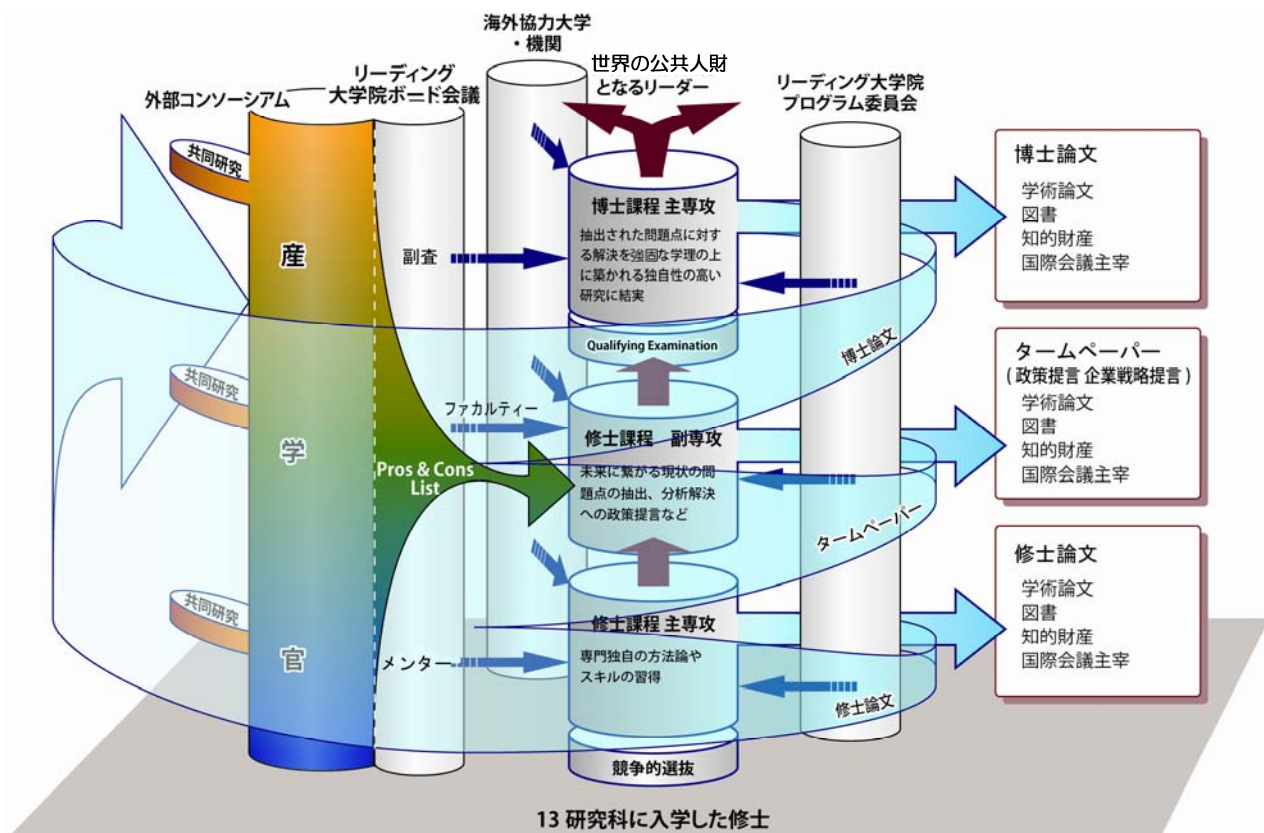
慶應義塾で積み上げてきた学問的伝統とこれまで築いてきたプラットフォーム基盤での経験知により運用する本プログラムの優位性は明らかで、さらにそれを発展させる機が熟している。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



慶應義塾のリーディング大学院プログラム「超成熟社会発展のサイエンス」において超成熟社会の持続的発展のため社会を先導するリーダー養成の概念図



リーディング大学院プログラム「超成熟社会発展のサイエンス」における5年一貫大学院課程の概念図

| | |
|---|---------------|
| 機 関 名 | 慶應義塾大学 |
| プログラム名称 | 超成熟社会発展のサイエンス |
| <p>〔採択理由〕</p> <p>本プログラムで提案されている超成熟社会を持続的に発展させるオールラウンド型リーダーの育成は、日本の具体的課題を解決するリーダー育成プログラムとして、重要な視点を有している。文理融合を基本理念に据えて、高い専門性と周辺総合力をともに備えたグローバルリーダーの養成に向けた確かな提案であり、既存の研究科でプログラムを進めながら、大学全体に大学院教育改革を拡大していく、比較的無理のない実現可能性の高いものとなっている。また、本プログラムを実行していくための強力な国際ネットワークや、産業界、官界からの有識者からなるリーディング大学院ボード会議による外部コンソーシアムなどを有しており、充実した外部サポート体制が構築されている。</p> <p>本プログラムに掲げてある3課題、「新しい産業構造を作る」、「新しい社会の仕組みを作る」、「新しい社会における医療と福祉を確立する」、は極めて明確であり、これらに関連する問題解決を主題として独創的な企画力やマネジメント力の養成を目指している点が優れており、そのための人材育成として、既存の研究科に入学した大学院学生に、副専攻を選択させ、それによって新しいタイプの学生を形成しようという点も評価できる。</p> <p>教育・研究資源に関しては、慶應義塾の大学院では過去10年にわたって理工学、医学、政策・社会科学や人文科学等の幅広い分野で延べ26件の21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラム、組織的な大学院教育改革推進プログラムなどの大学院改革プログラムを積極的に推進し、後期博士課程の高度人材育成プラットフォームを築き上げるとともに、海外の大学との間でダブルディグリー制度など、多数の連携を有しており、プログラムコーディネーターをはじめ、国際経験が豊富で広い視野で活躍している人材がプログラム担当者に配置されていることも高く評価できる。</p> | |